

自由論題報告

労働組合が経営者予想に及ぼす影響

頭士 奈加子（一橋大学大学院）・鈴木 健嗣（一橋大学）

本研究では、日本のデータを用いて、労働組合が経営者予想の値に及ぼす影響を調査する。様々な研究で、労働組合が企業の意味決定に及ぼす影響が報告されている (Bronars & Deere, 1991; DeAngelo & DeAngelo, 1991; Perotti & Spier, 1993; Klasa, et al., 2009; Matsa, 2010; Berk, et al., 2010; Agrawal & Matsa, 2013; Chemmanur, et al., 2013; Chino, 2016; Cho, et al., 2017)。経営者予想の値は様々なインセンティブによって影響を受けるが、労働組合が及ぼす影響はまだ検証されていない。日本では、企業別に毎年行われる労使交渉が一年を通じて数回行われる経営者予想にどのようなバイアスをかけるかを検証できるため、最適な検証環境である。

労働組合が経営者予想に及ぼす影響については2つの仮説が考えられる。一つ目は、経営者が労働組合に対する企業の交渉力を高めるため、業績予想にネガティブなバイアスをかけるインセンティブを持つという仮説である。こうすることで、労働組合の賃上げ要求に対応するだけの経営状況にないと示し、結果的に労働組合から譲歩を引き出すことが期待できる。この仮説は、労働組合と企業の財務的・非財務的なニュースの数量の関係に着目した Chung, et al. (2016)の研究と整合する。2つ目は、従業員の失業リスクに対する労働組合からの補償要求という潜在的な倒産コストを避けるために、経営者が業績予想にポジティブなバイアスをかけるインセンティブを持つという仮説である。経営者予想の楽観性について研究した Kato et al. (2009)は、経営者が、株主や債権者に経営がうまくいっていることを確信させるために、楽観的な見出しを出すことがあると述べている。経営者は労働組合との関係を前にどちらのインセンティブも持ち得るため、どちらの仮説が支持されるかは実証上の課題である。

労働組合が経営者予想に及ぼす影響を検証した結果、労働組合の組織率が高い企業の経営者ほど、当年の実際の業績よりも低い予想、前年の実績よりも低い予想、アナリスト予想よりも低い予想を出すことが分かった。これらの結果は、労働組合に対面する経営者が業績予想にネガティブなバイアスをかけ、サプライズの少ない業績予想を出すことを示唆する。さらに、この傾向は労使交渉中よりも労使交渉前に顕著となる。この結果は、経営者が労使交渉に備えて経営者予想にバイアスをかけているということを示唆する。本研究の結果は、労働組合に対面する経営者の予想バイアスについて、経営者が

労働組合からの要求に対する交渉力を得るための戦略的な情報提供を行うという考え方 (Kleiner & Bouillon, 1988; Hilary, 2006; Chung, et al., 2016; Bova, 2013)と整合する。